

落花生農家を一貫支援

やます、千葉興銀と連携

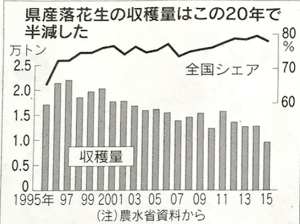
千葉県を代表する農産物、落花生の生産拡大に向けた取り組みが動き出す。県産品を使った土産物の製造・販売を手掛けるやます(千葉県市原市、諏訪寿一社長)が千葉興銀銀行と組み、就農から買い取りまで一貫支援する。県産落花生の収穫量は、この20年間で半減し初めて1万トを割った。やますでは自社に必要な量の確保とともに県産落花生の振興に結びつける。

土地貸し出し、栽培助言

買い取り価格も保証

同社はこのほどグループの農業生産法人、房の駅農場(千葉県市原市)とともに「落花生の契約栽培プロジェクト」を立ち上げた。県内の落花生農家に加え、落花生栽培

グループを通して落花生農家への栽培指導や収穫支援なども担う



全国シェアは8割に迫る

千葉	9,590
茨城	1,510
神奈川	285
栃木	191
鹿児島	129
全国	12,300

(注)単位ト。1000ト。15年10月1日現在の収穫量。15年10月1日現在の県産落花生栽培面積。15年10月1日現在の県産落花生栽培面積。

の新規就農者も対象に5月をメドに生産量を全量買い取る契約を結ぶ。2016年にはまず40トの買い取りを目指す。落花生の生産に興味を持つ人を対象にセミナーを開き、新規就農を促すプロジェクトに沿って契約した農家には、房の駅農場が持つ農地の貸し出しや種子の手配、栽培に

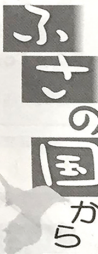
秋の収穫の時期には、農家が栽培した落花生は、契約内容に基づいて原則として全量をやますが買い取る。契約時にあらかじめ最低保証価格を

必要ならアドバンスなどを手掛ける。アドバンスにはやますの職員のほか、農業経営アドバイザーなど農業関係の資格を持つ千葉興銀の担当者も参加。はじめて生産する農家でも一定以上の品質の落花生がつかれるように、土の耕し方から除草の時期、輪作の方法などをきめ細かく指導する。

農家が栽培した落花生は、契約内容に基づいて原則として全量をやますが買い取る。契約時にあらかじめ最低保証価格を

必要ならアドバンスなどを手掛ける。

農家の重さが生産をやる要因になっているという。機械を貸し出し、落花生を土から掘り起こす作業や枝をき落とす作業などの負担を軽減す



まずは16年に栽培面積16万平方メートルに相当する、40トの収穫・買い取りを目指す。毎年、栽培農家を増やし、最終的には収穫量を2万ト以上に増やす計画だ。落花生だけでなく、サツマイモや大根などの他の農産物にも契約の範囲を広げられることも検討する。

千葉県は落花生収穫量が国内シェア8割を占める一大産地だ。だが農家は天候不良などによる不作が続く、15年の収穫量は前年比25%減の9590トと初めて1万トを割

の高齢化や機械化の遅れ、価格の安い中国産の加工品の輸入増などを受け、年々収穫量は減少している。特にここ数年間は天候不良などによる不作が続く、15年の収穫量は前年比25%減の9590トと初めて1万トを割

設定。収穫後に、各農家が生産した落花生の品種や出来栄に応じた買い取り価格を上乗せする。買い取った落花生はやますが自社で袋詰めして販売するほか、菓子類などの材料として使うことも想定する。

この20年で半減、ピーク時の1960年代の2割以下となった。収穫量の大幅減を受け、15年にやますが取り扱った落花生原材料は過去最低の150トにとどまった。同社では今後、安定的に生産・調達できる仕組みを整えることで、自社商品の安定供給だけでなく、県内農業の活性化にもつなげたい考えだ。